

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年6月28日

【事業年度】 第61期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 エステールホールディングス株式会社
(旧会社名：As-me エステール株式会社)

【英訳名】 ESTELLE HOLDINGS CO., LTD.
(旧英訳名：As-me ESTELLE CO., LTD.)

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 丸山 雅史

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

【電話番号】 03-5777-5120(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 河合 瑞人

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

【電話番号】 03-5777-5120(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 河合 瑞人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 当社は、2018年10月1日に会社名を「エステールホールディングス株式会社」、英訳名を「ESTELLE HOLDINGS CO., LTD.」に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第57期	第58期	第59期	第60期	第61期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(百万円)	33,778	34,000	32,579	32,686	32,504
経常利益	(百万円)	1,059	1,047	1,292	1,528	1,343
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	722	164	436	827	686
包括利益	(百万円)	468	89	504	883	658
純資産額	(百万円)	13,245	13,034	13,270	13,544	13,731
総資産額	(百万円)	33,454	33,538	32,992	33,141	33,670
1株当たり純資産額	(円)	1,187.32	1,168.35	1,189.55	1,247.56	1,287.06
1株当たり当期純利益	(円)	64.74	14.75	39.14	75.49	64.49
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	39.6	38.9	40.2	40.7	40.6
自己資本利益率	(%)	5.5	1.3	3.3	6.2	5.1
株価収益率	(倍)	12.2	43.5	17.2	13.0	10.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	429	1,844	2,006	1,755	1,508
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	259	722	432	1,294	644
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	229	65	1,131	768	147
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	6,267	7,454	7,895	7,677	8,387
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	3,037 (803)	2,897 (941)	2,860 (844)	2,730 (867)	2,571 (1,155)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高及び営業収益 (百万円)	28,132	28,567	27,685	27,393	20,840
経常利益 (百万円)	1,279	1,222	1,504	1,528	1,065
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	901	318	163	965	574
資本金 (百万円)	1,571	1,571	1,571	1,571	1,571
発行済株式総数 (千株)	11,459	11,459	11,459	11,459	11,459
純資産額 (百万円)	12,882	12,881	12,462	12,881	12,958
総資産額 (百万円)	32,575	33,063	32,114	32,432	30,687
1株当たり純資産額 (円)	1,154.76	1,154.67	1,117.06	1,192.04	1,219.32
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	27.00 ()	24.00 ()	24.00 ()	30.00 ()	27.00 ()
1株当たり当期純利益 又は1株当たり 当期純損失() (円)	80.82	28.56	14.62	88.11	53.90
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	39.5	39.0	38.8	39.7	42.2
自己資本利益率 (%)	7.1	2.5		7.5	4.4
株価収益率 (倍)	9.8	22.5		11.1	12.1
配当性向 (%)	33.4	84.0		27.2	50.1
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	1,674 (455)	1,689 (437)	1,644 (410)	1,905 (453)	110 (238)
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	108.8 (130.7)	92.0 (116.5)	99.3 (133.7)	144.0 (154.9)	104.0 (147.1)
最高株価 (円)	910	825	725	1,269	1,009
最低株価 (円)	627	541	539	671	575

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第57期の1株当たり配当額には、当社株式の東京証券取引所市場第一部銘柄指定の記念配当3円を含んでおります。

3. 第60期の1株当たり配当額には、株式会社化60周年記念の記念配当3円を含んでおります。

4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第57期、第58期、第60期および第61期は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第59期は、1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第59期における自己資本利益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

6. 第59期における株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

7. 第59期における配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

8. 最高・最低株価は、2014年12月2日より東京証券取引所(市場第一部)におけるものであり、それ以前は同(市場第二部)におけるものであります。

2 【沿革】

当社は1946年9月4日、東北土建工業株式会社の商号をもって設立(以下、形式上の存続会社という)されたものですが、1973年2月20日株式会社信州宝石(形式上の存続会社)に商号を変更し、本店を東京都千代田区神田鍛冶町2丁目8番地に移転した後、株式会社信州宝石(1959年3月12日設立、以下、実質上の存続会社という)の株式額面金額を変更(1株の額面金額を500円から50円へ)するため、1973年7月3日をもって同社を吸収合併しました。合併前の当社は休業状態であり、従って法律上消滅した旧株式会社信州宝石が、実質上の存続会社であるため、特に記載のない限り、実質上の存続会社に関して記載しております。

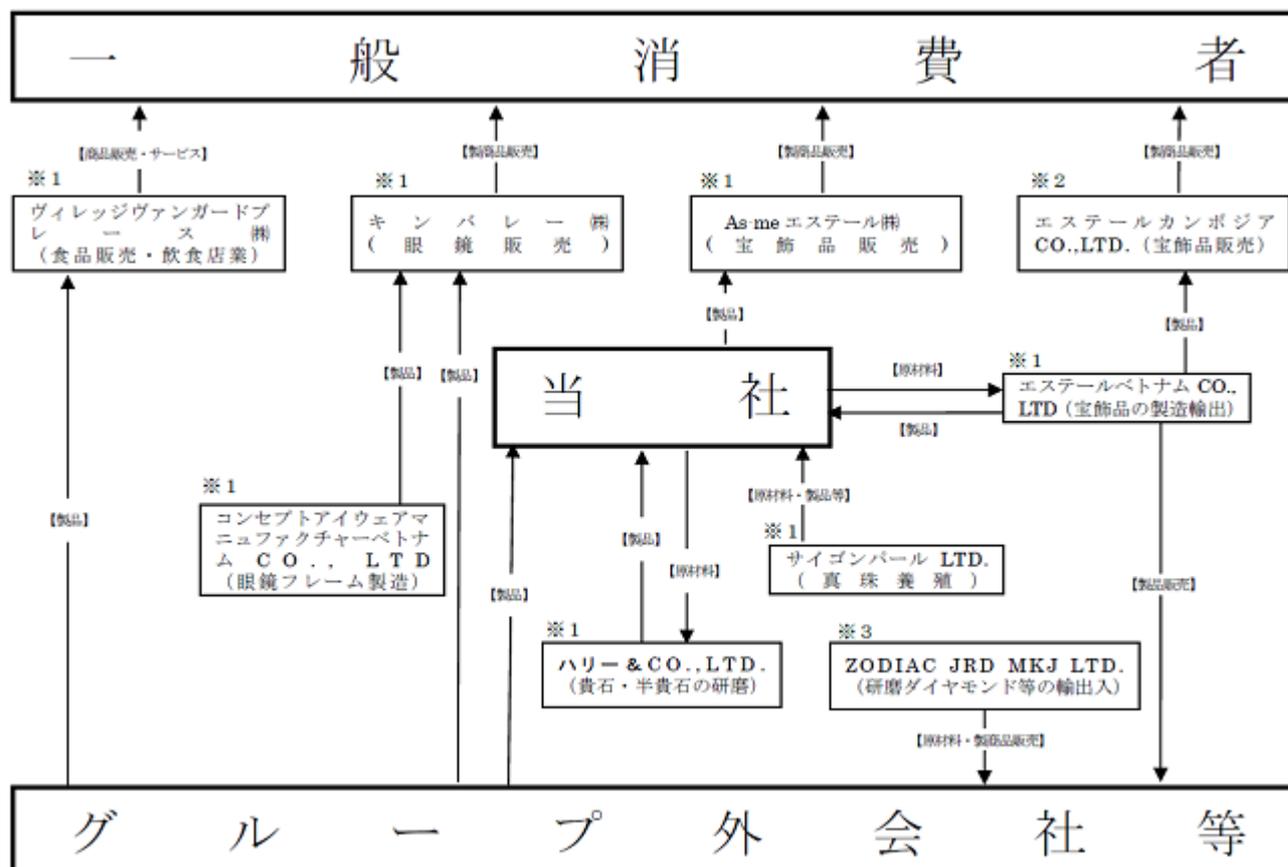
年月	事項
1959年3月	研磨宝石の卸売を目的として資本金150万円をもって、株式会社信州宝石を東京都台東区浅草菊屋橋に設立
1960年12月	東京都台東区浅草三筋町に本社を移転
1969年2月	東京都千代田区神田鍛冶町に本社を移転
1973年7月	株式の額面金額を変更するため、形式上の存続会社株式会社信州宝石に吸収合併
1988年8月	商号を株式会社シンシューに変更
1989年10月	株式会社エステ、株式会社ウエスタン・ジュエル、及び株式会社アスクと合併、商号をエステール株式会社に变更
1996年4月	キンパレー株式会社(現連結子会社)を設立
1996年9月	東京都新宿区西新宿に本社を移転
1997年2月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1998年6月	インドにMKJ JEWELLERY PRIVATE LTD.を設立
2000年12月	旧ジュエリーエースベトナムの資本を譲受し、子会社(現エステールベトナムCo.,Ltd.(現連結子会社))とする
2001年7月	ベトナムにサイゴンパールLTD.(現連結子会社)を設立
2003年5月	本社を東京都新宿区住吉町に移転
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所(現東京証券取引所JASDAQ(スタンダード))に株式を上場
2005年10月	谷口ジュエル株式会社(現連結子会社)の全株式を取得し、子会社とする。
2006年10月	ベトナムにサイゴンオプティカルCO.,LTD.(現連結子会社)を設立
2007年12月	あずみ株式会社を、公開買付けによる株式の追加取得により子会社化
2009年1月	MKJ JEWELLERY PRIVATE LTD.のZODIAC JRD MKJ LTDとの合併によりZODIAC JRD MKJ LTD.を関連会社化
2009年10月	あずみ株式会社を吸収合併、商号をAs-meエステール株式会社に变更
2010年11月	本社を東京都港区に移転(登記上の本店は2011年6月に同所に移転)
2012年4月	中華人民共和国浙江省に愛思徳(杭州)珠宝有限公司(現連結子会社)を設立
2013年5月	株式会社ブルームニー、株式会社ブルーミング及び株式会社ブルーム・アウトレットを株式取得により子会社化
2013年11月	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)より東京証券取引所市場第二部へ市場変更
2014年3月	株式会社ブルームニーが株式会社ブルーミング及び株式会社ブルーム・アウトレットを吸収合併し、商号を株式会社BLOOMに変更
2014年4月	カンボジアにエステールカンボジアCO.,LTDを設立
2014年12月	東京証券取引所市場第二部より同市場第一部に指定
2017年4月	ベトナムにハリー & CO.,LTD.(現連結子会社)を設立
2017年8月	当社子会社ヴィレッジヴァンガードブレース株式会社(現連結子会社)が、吸収分割により食品販売・飲食店事業を分割承継
2018年3月	当社が株式会社BLOOMを吸収合併
2018年3月	ベトナムにコンセプトアイウェアマニュファクチャーベトナムCO.,LTD.(現連結子会社)を設立
2018年10月	持株会社体制への移行に伴い、商号をエステールホールディングス株式会社に变更。併せて、吸収分割により株式会社As-meエステール準備会社(As-meエステール株式会社(現連結子会社)に商号を变更)が、当社の宝飾品販売事業を分割承継

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、エステールホールディングス株式会社(当社)、子会社11社(A s -meエステール株式会社・キンバレー(株)・谷口ジュエル(株)・ヴィレッジヴァンガードブレス(株)・エステールベトナムCO.,LTD.・サイゴンパールLTD.・サイゴンオプティカルCO.,LTD.・ハリー & CO.,LTD.・コンセプトアイウェアマニュファクチャーベトナムCO.,LTD.・愛思徳(杭州)珠宝有限公司・エステールカンボジアCO.,LTD.)及び関連会社1社により構成されており、事業内容は、指輪、ネックレス、ブレスレット、ピアス、イヤリング、アクセサリ、眼鏡等の製造及び販売を主に営んでおります。

連結会社の報告セグメントの区分は、当社、A s -meエステール株式会社、エステールベトナムCO.,LTD.、サイゴンパールLTD.及びハリー & CO.,LTD.が宝飾品に属し、キンバレー(株)及びコンセプトアイウェアマニュファクチャーベトナムCO.,LTD.が眼鏡に属し、ヴィレッジヴァンガードブレス(株)が食品販売・飲食店に属しております。

当社及び関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります



- (注) 1 連結子会社
 2 持分法非適用非連結子会社
 3 持分法非適用関連会社
 4 谷口ジュエル(株)、サイゴンオプティカルCO.,LTD.及び愛思徳(杭州)珠宝有限公司は事業活動を休止しております。

なお、当期の関係会社の異動は以下のとおりであります。

- ・2018年4月に、当社の完全子会社である株式会社A s -meエステール準備会社を設立
- ・2018年10月に、当社を分割会社とし、株式会社A s -meエステール準備会社(A s -meエステール株式会社に商号を変更)を分割承継会社とする吸収分割により、当社の宝飾品販売事業を分割承継

4 【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業内容	議決権の 所有割合(%)	関係内容
エステールベトナムCO., LTD.	Haiphong City, Vietnam	(千US\$) 1,310	宝飾品	100.00	宝飾品を製造している。 役員の兼任あり。
キンバレー株式会社	東京都港区	(百万円) 10	眼鏡	100.00	眼鏡を販売している。 役員の兼任あり。 資金援助あり。
谷口ジュエル株式会社 (注)2	東京都港区	(百万円) 10	宝飾品	100.00	役員の兼任あり。
サイゴンパールLTD. (注)3	Khanh Hoa Province, Vietnam	(千US\$) 2,500	宝飾品	100.00	真珠を養殖している。
サイゴンオプティカルCO., LTD. (注)2	Phu Yen Province, Vietnam	(千US\$) 500	眼鏡	100.00	眼鏡フレームを製造している。 役員の兼任あり。
愛思徳(杭州)珠宝有限公司 (注)2	中国 杭州市	(百万円) 250	宝飾品	80.00	宝飾品を販売している。 役員の兼任あり。
ハリー & CO., LTD.	Phu Yen Province, Vietnam	(千US\$) 1,000	宝飾品	100.00	半貴石・貴石を研磨している。 役員の兼任あり。
ヴィレッジヴァンガードブ レース株式会社	東京都港区	(百万円) 10	食品販売・ 飲食店	90.00	食品販売・飲食店事業を行っ ている。 役員の兼任あり。 資金援助あり。
コンセプトアイウェアマニ ファクチャーベトナム CO., LTD.	Phu Yen Province, Vietnam	(千US\$) 1,000	眼鏡	51.00	眼鏡フレームを製造している。 役員の兼任あり。
As-meエステール株式会社	東京都港区	(百万円) 10	宝飾品	100.00	宝飾品を販売している。 役員の兼任あり。

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、事業セグメントの名称を記載しております。

2. 谷口ジュエル(株)、サイゴンオプティカルCO., LTD.及び愛思徳(杭州)珠宝有限公司は、事業活動を休止しております。

3. サイゴンパールLTD.は、特定子会社に該当しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
宝飾品	2,347(562)
眼鏡	155(252)
食品販売・飲食店	69(341)
合計	2,571(1,155)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人数を外書で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
110(238)	44.1	14.3	4,779

セグメントの名称	従業員数(人)
宝飾品	110(238)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人数を外書で記載しております。
2. 前事業年度末に比べ従業員数が1,795人減少しております。主な理由は、販売部門を会社分割により子会社に継承させたことによるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社従業員の一部は、「UAゼンセンSSUA As-meエステールユニオン」を結成しており、上部団体として「UAゼンセン同盟専門店ユニオン連合会」に加盟しております。なお、労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループの宝飾品事業における経営環境としましては、国内の市場規模は成熟過程にあり拡大が望めず、また、将来的には人口減少と相俟って縮小均衡してゆくものと思われま。一方で、供給側では、小規模事業者が多数を占め、大手の市場占有率が低い現状では、シェア拡大の機会があると言えます。

足許の経済環境としましては、各国の通商政策など海外動向の不透明感は拭えないものの、国内では、継続的な経済政策等の効果もあり、緩やかな景気回復が継続するものと期待されます。一方で、個人消費では、本年10月に予定されている消費税率の引き上げによる消費マインドへの影響などから盛り上がり欠ける展開が予想されます。また、雇用面も引き締まった状況が継続しており、従業員の採用においては、引き続き厳しい状況が続くものと思われま。

当社グループは、製造から販売までの一貫体制を敷いていることが最大の特徴であります。その特徴を最大限に活かし、高品質で信頼性の高い商品をお客様に提供するために、グループ内全ての部門において、人・物・金・時間等の経営資源の無駄を省くための改善策を実施することにより、業務のスピード化と効率化を推進することに注力いたしております。また、株主を含む全ての利害関係者に対しては、あらゆる局面において、企業価値の最大化を念頭に置いた意思決定を心がけ、また、社員にとってはその処遇において、成果が報われる会社作りに注力することにより、当社グループとして社会的責任を果たしていくことを経営の基本方針としております。

当社グループは、経営の基本方針を徹底することにより売上高のみならず、売上総利益、営業利益向上にも意を用いることにより、企業価値を高め、ROEの向上に繋げることに努めてまいります。

中長期に対処する課題としましては、まず、当社グループの最大の特徴である「製造から販売までの一貫体制」をさらに充実させることであります。グループ内全ての部門において、無駄、無理、ムラを排除することにより、それぞれの部署における能力を強化し、コスト競争力や商品開発力を高め、その結果として品質の向上とコストの削減を追求し、顧客満足度を高めてまいります。

今一つの課題は、販売力の強化であり、これについては「地域に密着した店作り」を基本としており、その目的に即した採用や教育を実施してまいります。また販売力強化のもう一つの柱である店舗展開については、各商圈の変化や店舗採算等を検証しつつリニューアルも含め、さらにスクラップアンドビルドを強化してまいります。

さらに、商品戦略の骨格としては「ブランド戦略」を推進しておりますが、お客様のニーズを的確に捉えるとともに、グループ各社の特徴を最大限に活かし、幅広い層のお客様に末永くご愛顧いただけるように営業基盤を広げてまいります。

なお、当社グループの事業領域及び各事業の業容の拡大に伴いグループ全体の経営の機動性、効率性などを確保するため、2018年10月1日を以て、当社は当社の販売部門を会社分割により分社化し、持株会社体制に移行いたしました。

こうした方針のもとで当社各部門の全ての力をお客様に満足していただける商品やサービスを提供することに集中し、当社グループ全体の業容の拡大に取り組んでゆく所存でございます。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(市況変動及び為替変動について)

当社グループの宝飾品事業においては、主に金・プラチナ等の貴金属地金及びダイヤモンドを始めとする貴石を原材料としており、これらは市況変動あるいは為替変動のリスクに晒されております。市況あるいは為替に大幅な変動があった場合に、これを速やかに売価に反映することは困難であり、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(海外における生産拠点について)

当社グループの生産拠点は、ベトナムに集中しておりますが、同国固有の地政学上のリスク、長期に亘る貿易赤字やインフレといった国内経済状況、あるいは不安定な電力供給などの要因により、紛争・ストライキ・停電などによる不測の事態が生じ、生産活動が長期に停滞した場合、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(敷金及び保証金について)

当連結会計年度末において、敷金及び保証金30億47百万円を計上しておりますが、これは主に出店先商業施設に対して差し入れたものであります。これら商業施設において経営破綻などの不測の事態が生じ、敷金及び保証金の回収が困難となった場合、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(減損損失について)

店舗設備の固定資産等について、当連結会計年度において1億52百万円の減損損失を計上しておりますが、消費動向等の経営環境の変化により全社的に業績が悪化した場合、回収可能性の見積りにおける影響が多数の店舗に及ぶことから、減損損失が増大する可能性があります。

(個人情報の管理について)

当社グループでは、小売販売においてお客様よりご提供いただいた顧客情報を取り扱っております。これらの個人情報の取扱いについては、社内体制の整備、情報インフラにおけるセキュリティーの確保及び従業員への教育の実施などにより、厳格な管理の下で行なっております。しかしながら、不測の要因により顧客情報が流出した場合、損害賠償の発生のみならず社会的信用を失うこととなり、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(自然災害、事故等について)

当社グループは、宝飾品事業における物流業務を一ヶ所(山梨県甲府市)に集中しており、また、同地域では、当社商品の外注加工先や商品の仕入先が集中しております。同地域で、大規模な自然災害等によりライフラインの分断や交通に係わる障害が発生した場合、または、当社物流拠点で火災などの不測の事故が発生した場合には、店舗への商品供給に支障をきたし、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(有利子負債について)

有利子負債については、かねてより残高の圧縮、借入金利の固定化などを行い、金利上昇リスクの軽減に努めてまいりましたが、今後の経済環境等諸情勢の変化に伴う金利上昇リスクは引き続き内包されており、金利水準の変動が、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

経営成績等の状況の概要及び経営者の視点による分析・検討内容

(1) 経営成績等

当連結会計年度におけるわが国経済は、国内の企業業績は引き続き堅調に推移し、雇用環境においても引き締まった状態が継続しましたが、年度後半では、米中の貿易摩擦の深刻化に起因して中国経済は減速し、生産設備など資本財の中国への輸出減少が見られるなど、景気先行については不透明感を強めました。また、個人消費は、物価上昇への警戒感から低価格志向が強まるなど、停滞しました。

当連結会計年度の業績は、売上高は、前年度8月に開始した食品販売・飲食店事業の寄与がありましたが、宝飾品事業における不採算店舗の圧縮により、325億4百万円（前年同期比0.6%減）となりました。営業利益は、食品販売・飲食店事業で店舗数の拡大などで販売費が先行しているため13億70百万円（前年同期比11.3%減）となり、経常利益は13億43百万円（前年同期比12.1%減）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、税金費用の増加などにより、6億86百万円（前年同期比16.9%減）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりです。

（宝飾品）

外部顧客への売上高は、不採算店の圧縮を先行させたため286億74百万円（前年同期比3.6%減）となり、営業利益は、17億24百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

（眼鏡）

外部顧客への売上高は、20億79百万円（前年同期比3.0%増）となり、営業利益は、71百万円（前年同期比36.3%減）となりました。

（食品販売・飲食店）

外部顧客への売上高は、店舗数の増加と当連結会計年度が通期の業績となるため17億51百万円（前年同期比92.4%増）となり、営業損益は、販売費が先行しているため4億33百万円の損失（前年同期は1億56百万円の損失）となりました。

なお、当期における当社グループの主な店舗展開は以下のとおりです。

事業セグメント	宝飾品	眼鏡	食品販売・飲食店
会社名	As-meエステール(株)	キンパレー(株)	ヴィレッジヴァンガード プレス(株)
前期末店舗数	404	60	24
新規出店	13	3	9
閉店	37	4	3
当期末店舗数	380	59	30

（注）当社は、2018年10月1日付で会社分割により宝飾品・アクセサリーの販売その他これらに関連する事業を、当社の100%子会社である株式会社As-meエステール準備会社に承継し、持株会社体制に移行しました。同日、当社は、商号をAs-meエステール株式会社からエステールホールディングス株式会社に変更し、株式会社As-meエステール準備会社は、商号をAs-meエステール株式会社に変更しました。これにより、2018年10月1日以後の上記の宝飾品セグメントにおける店舗は、当社の子会社であるAs-meエステール株式会社に所属しております。

(2) 財政状態

連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末の331億41百万円より5億28百万円増加し、336億70百万円となりました。主な増減は、現金及び預金の増加7億76百万円と、敷金及び保証金の回収などによる減少1億87百万円です。

負債合計は、前連結会計年度末の195億97百万円より3億42百万円増加し、199億39百万円となりました。主な増減は、1年内返済予定の長期借入金の増加2億29百万円、未払法人税等の増加1億44百万円及び長期借入金の増加97百万円と、支払手形及び買掛金の減少1億26百万円です。

純資産合計は、前連結会計年度末の135億44百万円より1億86百万円増加し、137億31百万円となりました。主な増減は、利益剰余金の親会社株主に帰属する当期純利益6億86百万円の増加及び配当金の支払3億24百万円の減少と、自己株式の取得による減少1億48百万円です。

(3) キャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末の76億77百万円より7億9百万円増加し、83億87百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは15億8百万円のプラス(前年同期は17億55百万円のプラス)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益11億97百万円、減価償却費5億89百万円及び減損損失1億52百万円の資金増加と、法人税等の支払額4億45百万円及び仕入債務の減少1億3百万円の資金減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは6億44百万円のマイナス(前年同期は12億94百万円のマイナス)となりました。これは主に敷金保証金の回収4億14百万円の収入と、固定資産の取得7億34百万円、敷金保証金の差入1億35百万円及び投資その他の資産などその他94百万円の支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは1億47百万円のマイナス(前年同期は7億68百万円のマイナス)となりました。これは主に長期借入金の増加3億27百万円(純額)の収入と、配当金の支払3億24百万円及び自己株式の取得1億48百万円の支出によるものであります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資本政策につきましては、財務の健全性や資本効率など当社にとって最適な資本構成を目指しながら、会社の成長のための内部留保の充実と株主様への利益還元とのバランスを考え実施していくことを基本としております。

当社グループの事業活動の維持拡大に必要な資金を安定的に確保するため、内部資金の活用及び金融機関からの借入により資金調達を行っており、運転資金及び設備投資につきましては、当社においてグループ会社全体を一元管理しております。当期末の有利子負債残高は99億91百万円となっております。

また、資金調達コストの低減に努める一方、過度に金利変動リスクに晒されないよう、長期の借入について金利スワップなどの手法を活用しております。

金融機関からの借入も含め、当社グループの事業の維持拡大、運営に必要な運転、設備資金の調達は今後も可能であると考えております。現預金の84億53百万円は必要な流動性を確保していると判断しております。

(5) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
宝飾品(百万円)	10,883	95.8
眼鏡(百万円)	505	111.9
食品販売・飲食店(百万円)	1,069	225.6
合計(百万円)	12,458	101.4

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記金額には、仕入実績が含まれております。

受注実績

当社グループは見込生産を行っているため、記載を省略しております。

販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
宝飾品(百万円)	28,674	96.4
眼鏡(百万円)	2,079	103.0
食品販売・飲食店(百万円)	1,751	192.4
合計(百万円)	32,504	99.4

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

4 【経営上の重要な契約等】

当社と株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、2017年8月1日に当社子会社ヴィレッジヴァンガードプレス株式会社が、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションを分割会社として分割承継した食品販売及び飲食店事業に関し、協調して運営にあたること等を内容とした事業提携契約を締結しております。なお、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、当社との株主間契約に基づき、上記の会社分割期日にヴィレッジヴァンガードプレス株式会社の発行済株式の10%を当社から取得しており、さらに、上記の会社分割期日から一定期間において同社発行済株式の39%を追加して譲受けることを当社に請求できることとしております。

5 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の主なものは、宝飾品における新規出店14店舗の出店費用並びに既存店の改装費用等398百万円、眼鏡における新規出店3店舗の出店費用並びに既存店の改装費用等110百万円及び食品販売・飲食店事業における新規出店9店舗の出店費用並びに既存店の改装費用等241百万円等であります。その資金は主に自己資金及び借入金等で充ちいたしました。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地) 業務内容	セグメント の名称	帳簿価額				従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
管理・製造生産設備等	宝飾品					
本社 (東京都港区)		1		194	195	197
仙台オフィス (仙台市青葉区)				0	0	
甲府オフィス (山梨県甲府市)		1	15 (410.23)	5	22	151
名古屋オフィス (名古屋市中区)		2			2	
大阪オフィス (大阪市中央区)		5			5	
福岡オフィス (福岡市博多区)		0			0	
その他の設備						
厚生施設 (新潟県南魚沼郡湯沢町他)		10	10 (34.40)		21	
営業設備 店舗(380店舗) (全国)	〃	1,179	4 (27.42)	10	1,194	

(注) 1. 金額には消費税等は含まれておりません。

2. 帳簿価額「その他」は、工具・器具及び備品、ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定等であります。

3. 従業員数は、臨時従業員を含んでおります。

(2) 国内子会社

会社名	セグメント の名称	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	工具・器具 及び備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
A s - m e エステール 株式会社	宝飾品	ESTELLE他 (380店舗)	宝飾品 販売店舗		439			439	2,003
キンバレー 株式会社	眼鏡	T . G . C . (59店舗)	眼鏡 販売店舗	124	38		0	163	357
ヴィレッジ ヴァンガード ブレース 株式会社	食品販売 ・飲食店	HOME COMING他 (30店舗)	食品販売 店舗及び 飲食店舗	342	49		189	580	410

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、ヴィレッジヴァンガードブレース株式会社ののれん(無形固定資産)185百万円その他、主に建設仮勘定及びソフトウェアであります。

2. 金額には消費税等は含まれておりません。

3. A s - m e エステール株式会社の販売店舗のブランドは、ESTELLE、Milliflora、CUKE、B L O O M 等であります。地域別内訳は以下のとおりであります。

(地域別)

北海道 10店舗

東北 37店舗 (青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県)

関東 101店舗 (群馬県、栃木県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県)

北陸 26店舗 (新潟県、富山県、石川県、福井県)

中部・東海 85店舗 (長野県、山梨県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県)

近畿 43店舗 (滋賀県、奈良県、大阪府、京都府、兵庫県)

中国・四国 33店舗 (岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県、香川県、愛媛県、高知県、徳島県)

九州・沖縄 45店舗 (福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

4. キンバレー株式会社の販売店舗の地域別内訳は以下のとおりであります。

北海道 1店舗

東北 11店舗 (青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県)

関東 16店舗 (茨城県、埼玉県、千葉県、東京都)

北陸 3店舗 (新潟県、石川県)

中部・東海 8店舗 (長野県、山梨県、静岡県、愛知県、三重県)

近畿 9店舗 (京都府、大阪府、兵庫県、奈良県)

中国・四国 7店舗 (岡山、広島県、山口県、香川、愛媛県、高知県)

九州 4店舗 (福岡県、佐賀県、宮崎県、鹿児島)

5. ヴィレッジヴァンガードブレース株式会社の店舗の地域別内訳は以下のとおりであります。

東北 1店舗 (宮城県)

関東 17店舗 (埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)

北陸 1店舗 (新潟県)

中部 9店舗 (岐阜県、愛知県、静岡県)

九州 2店舗 (福岡県)

6. 従業員数は、臨時従業員数を含んでおります。

(3) 在外子会社

会社名	セグメント の名称	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	工具・器具 及び備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
エステール ベトナム CO.,LTD.	宝飾品	本社工場 (Haiphong city, Vietnam)	宝飾品生 産設備	28	0		28	56	344
サイゴン パールLTD.	宝飾品	本社工場 (Khanh Hoa Providence, Vietnam)	真珠養殖 設備	14			5	19	79
ハリー & CO.,LTD.	宝飾品	本社工場 (Phu Yen Providence, Vietnam)	半貴石・ 貴石研磨 設備	28			2	31	135
コンセプト アイウェア マニファク チャーベ トナム CO.,LTD.	眼鏡	本社工場 (Phu Yen Providence, Vietnam)	眼鏡 フ レーム生 産設備	25			25	51	50

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、機械装置及び建設仮勘定の合計であります。

2. 金額には消費税等は含まれておりません。

3. 従業員数は、臨時従業員数を含んでおります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、今後の景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定してあります。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,459,223	11,459,223	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	11,459,223	11,459,223		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2009年10月1日(注)	5,859,223	11,459,223		1,571		1,493

(注) 合併対価の交付割当

合併相手先名称 あずみ株式会社

合併比率 あずみ株式会社普通株式1株に対し、当社普通株式1.25株

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		19	22	63	38		4,218	4,360	
所有株式数 (単元)		7,609	697	17,945	4,798		83,316	114,365	22,723
所有株式数 の割合(%)		6.65	0.61	15.69	4.20		72.85	100	

(注) 自己株式831,283株は、「個人その他」に8,312単元、「単元未満株式の状況」に83株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
丸山 朝	東京都杉並区	2,661,900	25.05
株式会社桑山	東京都台東区東上野二丁目23番21号	463,750	4.36
丸山 雅史	東京都杉並区	316,000	2.97
丸山 範子	東京都杉並区	311,800	2.93
エステールホールディングス取引 先持株会	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号	292,850	2.76
DBS BANK LTD. 7 00104 常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部	東京都港区江南二丁目15番1号	273,200	2.57
小島 康誉	東京都港区	253,800	2.39
株式会社雅コーポレーション	東京都杉並区善福寺二丁目36番3号	250,000	2.35
有限会社英	東京都杉並区善福寺二丁目36番5号	229,950	2.16
エステールホールディングス従業 員持株会	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号	178,478	1.68
計		5,231,728	49.22

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 831,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,605,300	106,053	
単元未満株式(注)	普通株式 22,723		
発行済株式総数	11,459,223		
総株主の議決権		106,053	

(注) 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の株式83株が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) エステールホールディングス株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目 3番13号	831,200		831,200	7.25
計		831,200		831,200	7.25

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2018年5月10日)での決議状況 (取得期間 2018年5月11日～2018年5月31日)	200,000	250,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	178,700	148,321,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	21,300	101,679,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	10.7	40.7
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	10.7	40.7

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	25	16,875
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における保有株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	831,283		831,283	

(注) 当期間における保有株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけております。

また、将来の事業展開を十分に勘案し、内部留保とのバランスを考慮しつつ安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

当社は、期末配当による剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

なお、当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役の決議により剰余金の配当を行い、期末配当と9月30日を基準日とした中間配当の年2回の剰余金の配当を行う旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記の基本方針と、当事業年度の業績及び現在の財務状況等を総合的に勘案し、1株当たり27円の期末配当を実施することを決定いたしました。

なお、当社は、連結配当規制適用会社であります。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年5月13日 取締役会	286	27

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主を含む全ての利害関係者に対して、健全で透明性が高く、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる経営体制を確立することが、必要且つ重要な経営課題の一つと考えております。またコンプライアンスにつきましても、常に、経営陣のみならずグループ内全社員の認識をたかめるための施策を実践していくことが重要であると考えております。

<基本方針>

- 1) 株主の権利・平等性の確保に努めます。
- 2) 株主以外のステークホルダー（お客様、取引先、債権者、地域社会、従業員等）との適切な協働に努めます。
- 3) 適切な情報開示と透明性の確保に努めます。
- 4) 透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うため、取締役会の役割・業務の適切な遂行に努めます。
- 5) 株主との建設的な対話に努めます。

企業統治の体制

<企業統治の体制の概要及びその体制を採用する理由並びにその他の企業統治に関する事項>

当社は、当社の事業の内容、業容等に鑑み、経営の機動性を確保しつつ経営の健全性と透明性を維持するため、企業統治の体制としては、社外取締役の選任と監査役会等との連携に重心を置いた体制を採用しております。また、上記の体制が有効に機能するよう、社外取締役2名を独立役員に指定しております。

当社の取締役会は10名で構成され、毎月1回以上の開催を基本とし、当社の業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督しております。当社は監査役設置会社であり、監査役会は、3名(うち2名は社外監査役であります。)の監査役で構成されており、毎月1回以上の開催を基本とし、各監査役は、監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や、業務及び財産の状況調査をとおりして、取締役の職務執行を監査しております。

また、弁護士事務所とは複数契約しており、業務執行上の必要に応じ、適宜アドバイスを受けております。

当社の子会社については、当社の取締役が子会社の役員を兼任することで、当該子会社の業務の執行を監督し、また、当社グループの経営方針、リスク管理及びコンプライアンス等の方針の共有・浸透を図るとともにその体制の整備を進めております。

<責任限定契約の内容の概要>

当社と社外取締役齋藤理英、白川篤典、梅田常和並びに監査役高塚 明、社外監査役鈴木惟雄、二宮哲男及び当社の会計監査人爽監査法人は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。社外取締役並びに社外監査役との当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、いずれも法令の定める最低責任限度額としております。また、会計監査人との当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、36百万円または法令の定める最低責任限度額のいずれか高い額としております。

取締役に関する事項

当社の取締役の定数は12名以内とする旨定款に定めております。

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会決議に関する事項

<自己の株式の取得の決定機関>

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

<剰余金の配当等の決定機関>

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的とするものであります。

< 中間配当 >

当社は、中間配当の基準日を毎年9月30日とする旨定款に定めております。これは株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的とするものであります。

< 取締役及び監査役の責任免除 >

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果しうる環境を整備することを目的とするものであります。

< 株主総会の特別決議要件 >

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 13名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役会長	丸山 朝	1934年9月13日生	1959年3月 株式会社信州宝石(現 エステールホールディングス株式会社)を設立、代表取締役社長 1972年9月 ツルカメ商事株式会社(後にあずみ株式会社に社名変更、現 当社)代表取締役会長 2005年9月 谷口ジュエル株式会社代表取締役社長(現任) 2009年10月 当社代表取締役会長(現任) 2018年10月 A s - m e エステール株式会社代表取締役会長(現任)	(注) 5	2,661,900
代表取締役社長	丸山 雅史	1969年5月14日生	1993年4月 当社入社 1994年6月 当社取締役社長付 1996年4月 キンバレー株式会社代表取締役社長 2001年2月 エステールベトナムCO.,LTD.社長 2001年7月 サイゴンパールLTD.社長 2006年10月 サイゴンオブティカルCO.,LTD.代表取締役 2007年6月 当社専務取締役 2008年4月 当社代表取締役副社長生産・営業担当 2009年6月 当社取締役 2009年6月 あずみ株式会社(現 当社)代表取締役社長 2009年10月 当社代表取締役社長(現任) 2012年8月 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション社外取締役(現任) 2018年4月 株式会社A s - m e エステール準備会社(現 A s - m e エステール株式会社)代表取締役社長(現任)	(注) 5	316,000
専務取締役	平野 和良	1972年6月6日生	1995年8月 宇田川清税理士事務所入所 1996年6月 株式会社ジュエリーデン(現 ハピネス・アンド・デイ)入社 2002年9月 同社取締役 2009年4月 株式会社ベリテ入社 執行役員マーケティング本部長兼販売促進部長 2010年4月 同社代表取締役社長CEO 2014年12月 当社入社 2015年5月 株式会社B L O O M代表取締役社長 2015年6月 当社専務取締役(現任) 2017年2月 サイゴンオブティカルCO.,LTD.社長(現任) 2017年12月 愛思徳(杭州)珠宝有限公司董事長(現任) 2018年1月 コンセプトアイウェアマニュファクチャーベトナムCO.,LTD.社長(現任) 2018年10月 A s - m e エステール株式会社専務取締役(現任)	(注) 5	4,000
取締役 社長室長	佐野 司郎	1958年4月21日生	1981年3月 ツルカメ商事株式会社(現 当社)入社 2000年6月 同社取締役 2009年6月 同社常務取締役 2009年10月 当社常務取締役営業本部長 2013年6月 当社常務取締役社長室長 2013年11月 株式会社B L O O M代表取締役社長 2015年6月 当社取締役社長室長(現任) 2018年10月 A s - m e エステール株式会社取締役(現任)	(注) 5	34,000
取締役 経営企画本部長	森 元隆	1962年7月30日生	1985年3月 株式会社日本交通公社(現 株式会社ジェイティービー)入社 1991年6月 海外物産株式会社入社 2000年3月 当社入社 2007年6月 あずみ株式会社(現 当社)取締役 2009年10月 当社取締役経営企画本部長(現任) 2018年10月 A s - m e エステール株式会社取締役(現任)	(注) 5	11,050

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 営業本部長	小野 隆	1959年11月26日生	1982年3月 2009年10月 2011年10月 2012年6月 2013年6月 2018年10月 ツルカメ商事株式会社(現 当社)入社 当社営業本部東日本統括 当社営業本部副本部長 当社取締役営業本部副本部長 当社取締役営業本部長(現任) A s - m e エステール株式会社取締役 (現任)	(注) 5	9,750
取締役 管理本部長	河合 瑞人	1958年2月23日生	1980年3月 2002年10月 2005年9月 2006年12月 2009年10月 2013年7月 2018年6月 2018年10月 ツルカメ商事株式会社(現 当社)入社 同社経理部長 同社執行役員経理部長 同社執行役員企画・管理本部長代行 当社執行役員管理本部経理統括 当社執行役員財務部長 当社取締役管理本部長(現任) A s - m e エステール株式会社取締役 (現任)	(注) 5	3,000
取締役	齋藤 理英	1965年8月12日生	1999年4月 2003年4月 2006年4月 2007年6月 2009年10月 2009年10月 2015年8月 弁護士登録、東京弁護士会所属 東京弁護士会民事介入暴力対策特別委 員会委員(現任) 東京弁護士会常議員、日本弁護士連合 会代議員 あずみ株式会社(現 当社)取締役 齋藤綜合法律事務所代表(現任) 当社取締役(現任) 株式会社ヴィレッジヴァンガードコー ポレーション社外取締役(現任)	(注) 5	
取締役	白川 篤典	1967年7月29日生	1990年4月 1997年5月 2003年3月 2003年8月 2006年8月 2010年8月 2012年6月 国際証券株式会社(現 三菱UFJモルガ ン・スタンレー証券株式会社)入社 日本アジア投資株式会社入社 株式会社ヴィレッジヴァンガードコー ポレーション入社 同社取締役経営企画室長 同社常務取締役経営企画室長 同社代表取締役社長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 5	1,000
取締役	梅田 常和	1945年8月22日生	1970年3月 1974年3月 1987年9月 1995年4月 1995年6月 1999年1月 2000年6月 2000年6月 2007年6月 2010年6月 2015年6月 2016年1月 2019年6月 アーサーアンダーセン・アンド・カン パニー入社 公認会計士登録 アーサーアンダーセンパートナー及び 英和監査法人(現 有限責任あずさ監査 法人)代表社員 公認会計士梅田会計事務所所長(現 任) 日本開閉器工業株式会社(現 NKKス イッチズ株式会社)取締役副社長 株式会社エイチ・アイ・エス社外監査 役 株式会社トミー(現 (株)タカラトミー) 社外監査役(現任) 株式会社ハーバー研究所社外監査役 澤田ホールディングス株式会社社外監 査役 スズデン株式会社社外取締役 株式会社ハーバー研究所取締役監査等 委員(社外取締役)(現任) 株式会社エイチ・アイ・エス取締役監 査等委員(社外取締役)(現任) 当社取締役(現任)	(注) 5	17,500
常勤監査役	高塚 明	1956年6月19日生	1979年3月 2000年6月 2009年10月 2011年3月 2012年6月 2018年10月 ツルカメ商事株式会社(現 当社)入社 同社取締役 当社取締役マーケティング本部長 当社取締役商品本部長 当社常勤監査役(現任) A s - m e エステール株式会社監査役 (現任)	(注) 6	17,500

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役	鈴木 惟雄	1947年3月16日生	1971年4月 1999年10月 2002年6月 2008年6月 2009年10月	伊藤忠商事株式会社入社 伊藤忠メタルズ株式会社入社 同社取締役 あずみ株式会社(現 当社)監査役 当社監査役(現任)	(注)7	
監査役	二宮 哲男	1947年11月24日生	1971年4月 2001年4月 2004年6月 2005年11月 2008年11月 2009年11月 2011年6月	株式会社日本不動産銀行(現 株式会社 あおぞら銀行)入行 同行執行役員 アイフル株式会社取締役 学校法人原宿学園常務理事 同法人専務理事 同法人理事長 当社監査役(現任)	(注)6	
計						3,075,700

- (注) 1. 取締役 齋藤理英、白川篤典及び梅田常和は、社外取締役であります。
2. 監査役 鈴木惟雄及び二宮哲男は、社外監査役であります。
3. 代表取締役社長 丸山雅史は、代表取締役会長 丸山 朝の長男であります。
4. 取締役 森 元隆は、代表取締役社長 丸山雅史の義兄であります。
5. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
6. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
7. 2017年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
8. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (株)
須原 伸太郎	1970年9月29日生	1993年10月 1996年5月 1997年4月 1999年10月 2006年2月 2008年4月 2010年12月 2016年3月 2016年8月 2017年8月	監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)入所 須原公認会計士事務所開設 株式会社マッキンゼーエリクソン入社 株式会社エスネットワークス創業 代表取締役副社長 税理士法人エスネットワークス代表社員 株式会社エスネットワークス代表取締役社長(現任) 株式会社U-NEXT(現 株式会社USEN-NEXT HOLDINGS)社外監査役(現任) ラオックス株式会社社外取締役(現任) 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション社 外監査役 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション社 外取締役(現任)	

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

社外取締役齋藤理英並びに社外監査役鈴木惟雄及び二宮哲男は、当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係を有しておりません。

社外取締役白川篤典は、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションの代表取締役社長であり、当社と株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、当社子会社ヴィレッジヴァンガードブレース株式会社が、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションを分割会社として分割承継した食品販売及び飲食店事業に関し、協調して運営にあたること等を内容とした事業提携契約を締結しております。

社外取締役梅田常和は、公認会計士梅田会計事務所の所長であり、当社と公認会計士梅田会計事務所は、取引がありましたが、それに係る金額は僅少であります。

社外取締役白川篤典及び梅田常和の両氏は前記「役員一覧」に記載の当社株式を所有しております。

当社は、コンプライアンス体制の充実と経営の健全性の確保が、社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たすべき機能及び役割として考えております。

また、当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、社外取締役及び社外監査役の選任に関しては、高い専門性や経営に関する見識のみならず、当社の経営に対する独立性の保持が重要であると考えております。なお、これらの観点から、社外取締役及び社外監査役の選任状況は充足しているものと考えております。

なお、社外取締役は、内部監査の結果について定期的に報告を受け、内部統制部門からは随時に情報の提供を受けております。社外監査役は、会計監査の実施状況及び結果について定期的に報告を受けております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

常勤監査役(1名)及び非常勤監査役(2名)で実施しております。監査役は取締役会に常時出席している他、社内の重要な会議にも積極的に参加し、法令、定款違反や株主利益を侵害する事実の有無について重点的に監査を実施しております。なお、監査役3名は、前記「(2) 役員の状況 役員一覧」の「略歴」に記載のとおり、長年に亘り、役員として会社経営に従事しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査の状況

社長直轄の内部監査室(5名)が担当しております。内部監査室は期初に策定した内部監査計画に基づき、業務全般にわたる内部監査を実施し、監査結果は、直接社長に報告するものとしております。被監査部門に対しては監査結果を踏まえて改善指示を行い、監査後は遅滞無く改善状況を報告させることにより、内部監査の実効性を担保しております。

内部監査と会計監査は、監査計画、実施状況等について相互に情報の交換を行っております。監査役監査においては、会計監査及び内部監査による結果の報告を受けております。内部統制部門(総務・人事部門、経理部門及びシステム部門)は、これら監査において情報の提供のほか求めに応じ協力し、また、監査により指摘された事項に対応し改善を図っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

爽監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

登 三樹夫

熊谷 輝美

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社は、監査法人の選定にあたっては、監査品質及びその品質管理体制、独立性及び監査の相応な効率性などが適切な水準で維持され、当社の監査に相当であるかを基準としており、爽監査法人は、これら条件を充足しているものと判断しております。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査法人に対して評価を行っております。この評価の結果は、当事業年度に係る会計監査人の監査の品質及びその品質管理に係る体制、独立性及びその他の総合的な観点から再任するに相当であるとするものであります。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	36		36	
連結子会社				
計	36		36	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査公認会計士等に対する報酬の額は、当社の業務の特性及び監査日数等を総合的に勘案し、監査公認会計士との協議により決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の従前の監査業務における実績及び当連結会計年度に係る監査日数等の見積りを基に監査報酬の妥当性について検討し、会社法第399条第1項の同意をしております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めておりません。

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	退職慰労引当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く)	229	187	42	9
監査役 (社外監査役を除く)	8	8	0	1
社外役員	10	10	0	4

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、純投資目的である投資株式とは、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とするものとし、純投資目的以外の目的である投資株式とは、いわゆる政策保有目的の投資株式をいい、当該企業との安定的な取引関係の維持・強化を図ることを目的とするものとしております。投資株式については、慎重なる検証のもと必要最小限の範囲内において取得・維持するものであります。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社の事業を拡大・発展させ、企業価値を向上させるため、当社の事業展開における重要性や、取引先との関係強化に伴い当社の得られる利益、メリットなどを総合的に勘案し、事業展開上政策的に必要なかを年に一度定例的に検証し取締役会に報告しております。当連結会計年度については、2019年5月13日開催の取締役会において、上記基準のほか当該企業の業績や配当利回り等を含めて検証し、保有の維持が妥当であると判断しております。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	2	176
非上場株式以外の株式	2	54

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	1	6

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
(株)名古屋銀行	3,700	3,700	主な借入先の一つであり、当社の業績の維持拡大に資する。当該目的のもとでの定量的な保有効果については判断が困難であります。期末残高において前年比106%の借入を行っております。	有
	13	9		
(株)ナガホリ	192,000	192,000	宝飾品セグメントでの主な仕入先であり、安定的な商品の提供により、業績の維持拡大に資する。当該目的のもとでの定量的な保有効果については判断が困難であります。前年比82%での取引関係を維持しております。	有
	41	33		
(株)桑山		8,800	宝飾品セグメントでの主な仕入先であり、安定的な商品の提供により、業績の維持拡大に資する。	有
		2		

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (百万円)
非上場株式	3	50	3	50
非上場株式以外の株式				

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(百万円)	売却損益の 合計額(百万円)	評価損益の 合計額(百万円)
非上場株式			
非上場株式以外の株式			

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、爽監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応することが出来る体制の整備のため、公益財団法人財務会計基準機構に加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,677	8,453
受取手形及び売掛金	2,744	2,705
商品及び製品	9,960	9,585
仕掛品	1,509	1,682
原材料及び貯蔵品	2,350	2,529
その他	221	178
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	24,461	25,134
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,080	4,215
減価償却累計額	1 2,333	1 2,376
建物及び構築物（純額）	1,746	1,838
工具、器具及び備品	3,252	1,398
減価償却累計額	1 2,509	1 761
工具、器具及び備品（純額）	743	636
土地	31	31
その他	278	263
減価償却累計額	1 209	1 198
その他（純額）	68	64
有形固定資産合計	2,589	2,570
無形固定資産		
のれん	241	185
その他	199	223
無形固定資産合計	440	409
投資その他の資産		
投資有価証券	286	281
関係会社株式	2 26	2 26
繰延税金資産	783	882
敷金及び保証金	3,235	3,047
賃貸土地	53	53
その他	2 1,264	2 1,265
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	5,649	5,556
固定資産合計	8,679	8,536
資産合計	33,141	33,670

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,465	4,339
1年内返済予定の長期借入金	3,561	3,790
未払金	1,342	1,296
未払法人税等	277	422
賞与引当金	481	498
その他	998	1,085
流動負債合計	11,126	11,433
固定負債		
長期借入金	6,102	6,200
役員退職慰労引当金	584	622
退職給付に係る負債	1,673	1,595
資産除去債務	101	83
事業損失引当金	-	3
その他	7	-
固定負債合計	8,470	8,505
負債合計	19,597	19,939
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,571	1,571
資本剰余金	3,384	3,384
利益剰余金	8,885	9,248
自己株式	421	570
株主資本合計	13,419	13,634
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45	43
為替換算調整勘定	17	25
退職給付に係る調整累計額	33	26
その他の包括利益累計額合計	62	44
非支配株主持分	62	52
純資産合計	13,544	13,731
負債純資産合計	33,141	33,670

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	売上高	32,686		32,504
売上原価	12,217		12,479	
売上総利益	20,469		20,024	
販売費及び一般管理費	1	18,924	1	18,654
営業利益	1,545		1,370	
営業外収益				
受取利息	0		2	
受取配当金	4		6	
不動産賃貸料	4		3	
受取手数料	34		34	
その他	33		23	
営業外収益合計	77		69	
営業外費用				
支払利息	51		41	
為替差損	18		24	
その他	22		31	
営業外費用合計	93		96	
経常利益	1,528		1,343	
特別利益				
固定資産売却益	2	14	2	0
投資有価証券売却益			4	
受取補償金	8		17	
工事負担金等受入額	13			
特別利益合計	36		23	
特別損失				
固定資産除売却損	3	0		
減損損失	4	173	4	152
店舗閉鎖損失	4		13	
災害による損失	103			
事業損失引当金繰入額			3	
特別損失合計	281		168	
税金等調整前当期純利益	1,283		1,197	
法人税、住民税及び事業税	511		617	
法人税等調整額	53		96	
法人税等合計	457		521	
当期純利益	826		676	
非支配株主に帰属する当期純損失()	1		10	
親会社株主に帰属する当期純利益	827		686	

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	826	676
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	2
為替換算調整勘定	35	8
退職給付に係る調整額	23	6
その他の包括利益合計	1, 2 57	1, 2 17
包括利益	883	658
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	884	669
非支配株主に係る包括利益	1	10

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,571	3,384	8,456	146	13,265
当期変動額					
剰余金の配当			267		267
親会社株主に帰属する 当期純利益			827		827
連結範囲の変動			130		130
自己株式の取得				274	274
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			429	274	154
当期末残高	1,571	3,384	8,885	421	13,419

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	48	52	9	4		13,270
当期変動額						
剰余金の配当						267
親会社株主に帰属する 当期純利益						827
連結範囲の変動						130
自己株式の取得						274
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	2	35	23	57	62	119
当期変動額合計	2	35	23	57	62	273
当期末残高	45	17	33	62	62	13,544

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,571	3,384	8,885	421	13,419
当期変動額					
剰余金の配当			324		324
親会社株主に帰属する 当期純利益			686		686
自己株式の取得				148	148
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			362	148	214
当期末残高	1,571	3,384	9,248	570	13,634

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	45	17	33	62	62	13,544
当期変動額						
剰余金の配当						324
親会社株主に帰属する 当期純利益						686
自己株式の取得						148
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	2	8	6	17	10	27
当期変動額合計	2	8	6	17	10	186
当期末残高	43	25	26	44	52	13,731

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,283	1,197
減価償却費	605	589
減損損失	173	152
のれん償却額	37	55
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
事業損失引当金の増減額(は減少)		3
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	2	87
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	24	37
賞与引当金の増減額(は減少)	83	17
受取利息及び受取配当金	4	8
支払利息	51	41
投資有価証券売却損益(は益)		4
固定資産除売却損益(は益)	14	0
災害損失	103	
売上債権の増減額(は増加)	342	38
たな卸資産の増減額(は増加)	55	21
仕入債務の増減額(は減少)	15	103
未払金の増減額(は減少)	320	36
未払又は未収消費税等の増減額	15	7
その他	122	81
小計	2,499	1,987
利息及び配当金の受取額	4	7
利息の支払額	51	40
法人税等の支払額	696	445
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,755	1,508

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出		66
投資有価証券の売却による収入		6
子会社出資金の取得による支出	110	
吸収分割による支出	2 647	
固定資産の取得による支出	794	734
固定資産の売却による収入	55	0
敷金及び保証金の差入による支出	171	135
敷金及び保証金の回収による収入	492	414
保険積立金の積立による支出	21	21
貸付けによる支出		13
その他	97	94
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,294	644
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	3,600	4,400
長期借入金の返済による支出	3,876	4,072
割賦債務の返済による支出	2	2
リース債務の返済による支出	0	
自己株式の取得による支出	274	148
配当金の支払額	267	324
非支配株主からの払込みによる収入	52	
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	1	
財務活動によるキャッシュ・フロー	768	147
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	5
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	309	709
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	90	
現金及び現金同等物の期首残高	7,895	7,677
現金及び現金同等物の期末残高	1 7,677	1 8,387

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 10社

連結子会社の名称

エステールベトナムCO.,LTD.

キンバレー株式会社

谷口ジュエル株式会社

サイゴンパールLTD.

サイゴンオプティカルCO.,LTD.

愛思徳(杭州)珠宝有限公司

ハリー & CO., LTD.

ヴィレッジヴァンガードプレース株式会社

コンセプトアイウェアマニュファクチャーベトナムCO.,LTD.

As-meエステール株式会社

上記のうち、As-meエステール株式会社(株式会社As-meエステール準備会社より商号を変更)は、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社名

エステールカンボジアCO.,LTD.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

エステールカンボジアCO.,LTD.

ZODIAC JRD MKJ LTD.

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、いずれも当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちエステールベトナムCO.,LTD.、サイゴンパールLTD.、サイゴンオプティカルCO.,LTD.、愛思徳(杭州)珠宝有限公司、ハリー & CO.,LTD.及びコンセプトアイウェアマニュファクチャーベトナムCO.,LTD.の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては同日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

...連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

...移動平均法による原価法

デリバティブの評価方法

...時価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・商品・仕掛品

...主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料

...移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

...最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

...主として定率法。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物及び構築物のうち、建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～47年

構築物 15～40年

工具、器具及び備品 2～15年

無形固定資産

...定額法。ただしソフトウェア(自社利用)については社内における利用可能期間(5年)で償却しております。

長期前払費用

...定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討して、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員(年俸制移行者は除く)に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち、当連結会計年度において負担すべき額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

事業損失引当金

連結会社の事業に係る損失に備えるため、当該事業の状況等を勘案して必要額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

為替予約が付されている外貨建債権債務については、振当処理を行っております。また、特例処理の要件を満たしている金利スワップは、特例処理を行っております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建債権債務
金利スワップ	借入金利息

ヘッジ方針

為替予約は、外貨建債権債務に係る為替リスクを回避する目的で、実需の必要範囲内で行っております。金利スワップは、長期借入金にかかる金利変動リスクを、回避する目的で行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ対象との期日、金額などの同一性を確認することで、有効性を確認しております。特例処理によっている金利スワップについては、有効性の判定は省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却をおこなっております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

税抜方式により処理しております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」237百万円を「投資その他の資産」の「繰延税金資産」783百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表関係)

- 1 減価償却累計額には減損損失累計額を含めて表示しております。
- 2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
関係会社株式	26百万円	26百万円
その他(出資金)	36	36

(連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費の主なもの

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給与手当	7,914百万円	7,815百万円
賞与引当金繰入額	474	488
退職給付費用	207	160
役員退職慰労引当金繰入額	24	43
支払家賃	4,134	3,873
貸倒引当金繰入額	0	0

- 2 固定資産売却益の内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	10百万円	建物及び構築物	百万円
工具、器具 及び備品	2	工具、器具 及び備品	0
土地	1	土地	
その他 (有形固定資産)	0	その他 (有形固定資産)	
計	14	計	0

- 3 固定資産除売却損の内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
工具、器具 及び備品	0百万円	工具、器具 及び備品	百万円
計	0	計	

4 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

場所	用途または種類	金額(百万円)
北海道地区	店舗	1
東北地区	店舗	11
関東地区	店舗	64
中部・東海地区	店舗	29
北陸地区	店舗	2
近畿地区	店舗	36
中国・四国地区	店舗	4
九州地区	店舗	13
ベトナム	工場	10
合計		173

勘定科目ごとの内訳は次のとおりであります。

内訳	金額(百万円)
建物及び構築物	151
工具、器具及び備品	18
その他(有形固定資産)	2
投資その他の資産	1
合計	173

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位として、また賃貸不動産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

店舗のうち、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなった店舗及び閉店を予定した店舗の固定資産について減損損失を認識しました。

資産グループの回収可能額は、正味売却価額により測定しており、これら資産について、実質的に正味売却価額が認識できないものについては回収可能額をゼロとして算定しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

場所	用途または種類	金額(百万円)
北海道地区	店舗	2
東北地区	店舗	1
関東地区	店舗	85
中部・東海地区	店舗	4
北陸地区	店舗	4
近畿地区	店舗	18
中国・四国地区	店舗	8
九州地区	店舗	11
ベトナム	工場	7
中国	店舗	6
合計		152

勘定科目ごとの内訳は次のとおりであります。

内訳	金額(百万円)
建物及び構築物	109
工具、器具及び備品	18
その他(有形固定資産)	7
投資その他の資産	16
合計	152

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位として、また賃貸不動産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

店舗のうち、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなった店舗及び閉店を予定した店舗の固定資産について減損損失を認識しました。

資産グループの回収可能額は、正味売却価額により測定しており、これら資産について、実質的に正味売却価額が認識できないものについては回収可能額をゼロとして算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	3百万円	1百万円
組替調整額		4
計	3	2
為替換算調整勘定：		
当期発生額	35	8
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	39	37
組替調整額	5	46
計	34	9
税効果調整前合計	66	20
税効果額	9	3
その他の包括利益合計	57	17

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	3百万円	2百万円
税効果額	1	0
税効果調整後	2	2
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	35	8
税効果額		
税効果調整後	35	8
退職給付に係る調整額：		
税効果調整前	34	9
税効果額	10	2
税効果調整後	23	6
その他の包括利益合計		
税効果調整前	66	20
税効果額	9	3
税効果調整後	57	17

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	11,459,223			11,459,223
合計	11,459,223			11,459,223
自己株式				
普通株式(注)	303,158	349,400		652,558
合計	303,158	349,400		652,558

(変動事由の概要)

2017年5月12日の取締役会決議による自己株式の取得 138,700株

2017年11月8日の取締役会決議による自己株式の取得 210,700株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2017年6月29日 定時株主総会	普通株式	267	24円00銭	2017年3月31日	2017年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2018年5月10日 取締役会	普通株式	324	利益剰余金	30円00銭	2018年3月31日	2018年6月29日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	11,459,223			11,459,223
合計	11,459,223			11,459,223
自己株式				
普通株式(注)	652,558	178,725		831,283
合計	652,558	178,725		831,283

(変動事由の概要)

2018年5月10日の取締役会決議による自己株式の取得 178,700株
単元未満株式の買取りによる増加 25株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年5月10日 取締役会	普通株式	324	30円00銭	2018年3月31日	2018年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年5月13日 取締役会	普通株式	286	利益剰余金	27円00銭	2019年3月31日	2019年6月12日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	7,677百万円	8,453百万円
預入期間が3か月を超える定期預金		66
現金及び現金同等物	7,677	8,387

2 吸収分割により増加した資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

連結子会社ヴィレッジヴァンガードプレース株式会社が、会社分割により分割承継した食品販売・飲食店事業の分割時点の資産及び負債の内訳並びに金銭の支払による分割の対価と分割のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	120百万円
固定資産	279
のれん	278
固定負債	29
吸収分割による取得価額	650
現金及び現金同等物	2
差引：吸収分割のための支出	647

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

(借主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	41	93
1年超	85	158
合計	126	252

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資等の長期資金計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に純投資目的及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金並び未払金は、そのほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

長期借入金は、主に設備投資等の長期資金計画に基づく資金調達を目的としたものであり、返済日は最長で決算日後5年であります。長期借入金の一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、経理規程に従い、営業債権について、各部門において責任者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、連結子会社においても同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しております。

市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。デリバティブ取引の執行・管理については、職務権限規程に従い、稟議による承認決済を経て実施しております。また、経理部門が残高を管理し、財務管掌役員に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部門からの報告に基づき適時に資金計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社においても同様の管理を実施しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

前連結会計年度(2018年3月31日)

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	7,677	7,677	
(2) 受取手形及び売掛金	2,744	2,744	
(3) 投資有価証券	227	227	
(4) 関係会社株式	26	78	52
(5) 敷金及び保証金	92	92	0
資産計	10,768	10,821	52
(1) 支払手形及び買掛金	4,465	4,465	
(2) 1年内返済予定の長期借入金	3,561	3,587	26
(3) 未払金	1,342	1,342	
(4) 未払法人税等	277	277	
(5) 長期借入金	6,102	6,084	18
負債計	15,749	15,757	7

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(4) 関係会社株式

これらの時価については、株式等は取引所の価格によっております。

(5) 敷金及び保証金

これらの時価については、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標による利率で割引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 1年内返済予定の長期借入金、(5) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。なお、金利スワップは特例処理によっており、ヘッジ対象である長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式(*1)	59
敷金及び保証金(*2)	3,142

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3) 投資有価証券」に含めておりません。

(*2) 賃借物件において預託している敷金及び保証金の一部については、退去による返還までの期間を算定することが極めて困難と認められるため、時価評価の対象に含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	7,677			
受取手形及び売掛金	2,744			
敷金及び保証金	31	55	5	
合計	10,453	55	5	

4. 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	3,561	2,911	1,879	988	322	
合計	3,561	2,911	1,879	988	322	

当連結会計年度(2019年3月31日)

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	8,453	8,453	
(2) 受取手形及び売掛金	2,705	2,705	
(3) 投資有価証券	222	222	
(4) 関係会社株式	26	72	46
(5) 敷金及び保証金	54	54	0
資産計	11,462	11,509	46
(1) 支払手形及び買掛金	4,339	4,339	
(2) 1年内返済予定の長期借入金	3,790	3,812	21
(3) 未払金	1,296	1,296	
(4) 未払法人税等	422	422	
(5) 長期借入金	6,200	6,182	18
負債計	16,049	16,052	2

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(4) 関係会社株式

これらの時価については、株式等は取引所の価格によっております。

(5) 敷金及び保証金

これらの時価については、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標による利率で割引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 1年内返済予定の長期借入金、(5) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。なお、金利スワップは特例処理によっており、ヘッジ対象である長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式(*1)	59
敷金及び保証金(*2)	2,992

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3) 投資有価証券」に含めておりません。

(*2) 賃借物件において預託している敷金及び保証金の一部については、退去による返還までの期間を算定することが極めて困難と認められるため、時価評価の対象に含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	8,453			
受取手形及び売掛金	2,705			
敷金及び保証金	24	28	1	
合計	11,184	28	1	

4. 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	3,790	2,759	1,867	1,202	371	
合計	3,790	2,759	1,867	1,202	371	

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	227	164	63
(2) 債券			
(3) その他			
小計	227	164	63
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式			
(2) 債券			
(3) その他			
小計			
合計	227	164	63

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 59百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	222	161	60
(2) 債券			
(3) その他			
小計	222	161	60
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式			
(2) 債券			
(3) その他			
小計			
合計	222	161	60

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 59百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	6	4	
債券			
その他			
合計	6	4	

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2018年3月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約金額 (百万円)	契約額のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	997	405	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約金額 (百万円)	契約額のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	405	105	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の当社及び連結子会社の従業員の退職給付制度は、勤続期間が3年以上の社員が退職する場合、退職時までの職能資格制度に沿った資格ポイント及び勤続ポイントに基づき算定された退職金を支払うこととなっております。

この退職金に充てるため、必要資金の内部留保による社内引当資金から退職金(一時金)が支払われることになっております。

なお、上記の外に一部の当社及び連結子会社の従業員について、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,710百万円	1,673百万円
勤務費用	93	97
利息費用	2	1
数理計算上の差異の発生額	39	37
退職給付の支払額	92	139
退職給付債務の期末残高	1,673	1,595

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務 年金資産	百万円	百万円
非積立型制度の退職給付債務	1,673	1,595
連結貸借対照表に計上された負債 と資産の純額	1,673	1,595
退職給付に係る負債	1,673	1,595
連結貸借対照表に計上された負債 と資産の純額	1,673	1,595

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	93百万円	97百万円
利息費用	2	1
数理計算上の差異の費用処理額	5	46
確定給付制度に係る退職給付費用	90	51

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	34百万円	9百万円
合計	34	9

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)は次のとおりです。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	47百万円	38百万円
合計	47	38

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
割引率	0.067%	0.000%
資格ポイント及び勤続ポイントの 予想増加率	5.364%	4.531%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への拠出額は、前連結会計年度115百万円、当連結会計年度116百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	32百万円	28百万円
賞与引当金	146	170
未払事業税	28	38
未払費用及び未払金	29	30
役員退職慰労引当金	178	190
退職給付に係る負債	526	498
投資有価証券評価損	5	4
減損損失	48	40
資産除去債務	32	28
関係会社出資金評価損		75
関係会社事業損失引当金		24
繰越欠損金(注)2	90	296
その他	4	3
繰延税金資産小計	1,122	1,432
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2		296
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		227
評価性引当額(注)1	309	523
繰延税金資産合計	812	908
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	13	13
退職給付に係る調整累計額	14	11
買換資産圧縮積立金	1	1
繰延税金負債合計	29	26
繰延税金資産の純額	783	882

(注) 1. 評価性引当額が213百万円増加しております。この増加の主な内容は、連結子会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を206百万円追加的に認識したことに伴うものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	16	25	25	10	5	213	296百万円
評価性引当額	16	25	25	10	5	213	296 "
繰延税金資産							"

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	0.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0	0.0
住民税均等割	13.6	9.0
評価性引当額	14.7	11.9
子会社税率差異	3.2	2.3
差額負債調整勘定	1.1	
連結仕訳による影響		5.3
その他	1.0	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.6	43.5

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称 当社の宝飾品・アクセサリー販売事業

事業の内容 一般消費者に宝飾品・アクセサリー等を販売しております。

(2) 企業結合日

2018年10月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社、株式会社A s-meエステール準備会社(当社の連結子会社)を承継会社とする会社分割

(4) 結合後企業の名称

A s-meエステール株式会社(当社の連結子会社)

(5) その他取引の概要に関する事項

当社の持株会社化にともなう会社分割であります。

これにより、当社にとっては、グループ全体の経営戦略の決定及び経営管理、各事業会社における経営資源の効率的配分並びに機動的なM & Aや業務提携等の決定を担い、また、各事業会社にとっては、各事業における業務執行権限の委譲を受け、明確化した役割と責任のもと、迅速にその遂行にあたることで、当社グループの持続的な成長を実現させることを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末(2018年3月31日)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

主に店舗用建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

主に使用見込期間を2年と見積り、割引率は0.167%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当連結会計年度における資産除去債務の総額の増減

期首残高	61百万円
有形固定資産の取得等に伴う増加額	105
時の経過による調整額	
資産除去債務の履行による減少	65
期末残高	101

当連結会計年度末(2019年3月31日)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

主に店舗用建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

主に使用見込期間を2年と見積り、割引率は0.000%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当連結会計年度における資産除去債務の総額の増減

期首残高	101百万円
有形固定資産の取得等に伴う増加額	46
時の経過による調整額	
資産除去債務の履行による減少	64
期末残高	83

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

賃貸等不動産関係については、重要性に乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

賃貸等不動産関係については、重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に宝飾品の製造販売、眼鏡の製造販売及び食品販売・飲食店事業を営んでおります。したがって、当社は「宝飾品」、「眼鏡」及び「食品販売・飲食店事業」を報告セグメントとしております。

なお、前連結会計年度の報告セグメントの区分については、当連結会計年度の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
	宝飾品	眼鏡	食品販売・ 飲食店			
売上高						
外部顧客への売上高	29,758	2,018	909	32,686		32,686
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	29,758	2,018	909	32,686		32,686
セグメント利益又は損失()	1,579	112	156	1,535	9	1,545
セグメント資産	32,163	1,064	873	34,100	959	33,141
セグメント負債	19,019	576	1,008	20,604	1,007	19,597
その他の項目						
減価償却費	521	67	16	605		605
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	462	168	74	704		704

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額9百万円は、セグメント間取引消去であり、セグメント資産の調整額959百万円及びセグメント負債の調整額1,007百万円は、セグメント間債権債務消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
	宝飾品	眼鏡	食品販売・ 飲食店			
売上高						
外部顧客への売上高	28,674	2,079	1,751	32,504		32,504
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	28,674	2,079	1,751	32,504		32,504
セグメント利益又は損失()	1,724	71	433	1,362	7	1,370
セグメント資産	33,144	1,208	1,085	35,438	1,768	33,670
セグメント負債	19,594	411	1,703	21,709	1,769	19,939
その他の項目						
減価償却費	482	66	40	589		589
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	398	110	241	749		749

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額7百万円は、セグメント間取引消去であり、セグメント資産の調整額1,768百万円及びセグメント負債の調整額1,769百万円は、セグメント間債権債務消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	宝飾品	眼鏡	食品販売・飲食店	
減損損失	159	14		173

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	宝飾品	眼鏡	食品販売・飲食店	
減損損失	93	18	40	152

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	宝飾品	眼鏡	食品販売・飲食店	
当期償却額			37	37
当期末残高			241	241

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	宝飾品	眼鏡	食品販売・飲食店	
当期償却額			55	55
当期末残高			185	185

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容又は 職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	白川篤典			株式会社 ヴィレッジ ヴァンガード コーポレーション 代表取締役 社長	(被所有) 直接 0.0	金銭を対価 とする会社 分割	金銭を対価 とする会社 分割	650		

(注) 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションを分割会社並びに当社子会社を分割承継会社とする吸収分割であり、2017年8月1日に当社子会社ヴィレッジヴァンガードプレース株式会社が株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションの食品販売・飲食店事業を分割承継しました。なお、会社分割の対価の金額は第三者算定機関による事業価値の算定結果及び対象事業の状況並びに将来の見通し等を総合的に勘案し、分割会社との協議によって決定しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

関連当事者との取引については、重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

区分	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	1,247円56銭	1,287円06銭
1株当たり当期純利益金額	75円49銭	64円49銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	13,544	13,731
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	62	52
(うち非支配株主持分(百万円))	(62)	(52)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	13,481	13,678
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	10,806	10,627

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	827	686
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	827	686
期中平均株式数(千株)	10,955	10,651

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	3,561	3,790	0.40	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	6,102	6,200	0.33	2020年～2023年
其他有利子負債				
設備未払金(1年以内返済)	2			
計	9,665	9,991	0.35	

(注) 1. 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びその他の有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内の返済予定額は以下のとおりです。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,759	1,867	1,202	371

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	7,339	15,652	24,220	32,504
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額()(百万円)	224	117	756	1,197
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(百万円)	232	70	323	686
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	21.70	6.58	30.35	64.49

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	21.70	15.28	37.04	34.20

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,261	5,721
売掛金	1 3,121	1 653
商品及び製品	9,480	9,040
仕掛品	108	178
原材料及び貯蔵品	2,777	2,870
関係会社未収入金	7	3,014
前渡金	1 636	1 658
前払費用	29	23
関係会社短期貸付金	930	1,464
その他	1 192	1 301
貸倒引当金	2	2
流動資産合計	24,543	23,925
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,156	3,140
減価償却累計額	1,884	1,935
建物（純額）	1,271	1,205
工具、器具及び備品	2,890	438
減価償却累計額	2,304	407
工具、器具及び備品（純額）	585	31
土地	31	31
その他	7	7
減価償却累計額	7	7
その他（純額）	0	0
建設仮勘定	4	2
有形固定資産合計	1,892	1,270
無形固定資産		
ソフトウェア	148	174
ソフトウェア仮勘定	2	0
電話加入権	46	46
その他	0	0
無形固定資産合計	197	222

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	286	281
関係会社株式	62	72
関係会社出資金	553	353
長期前払費用	77	65
繰延税金資産	776	627
敷金及び保証金	2,917	2,713
保険積立金	1,068	1,090
賃貸土地	53	53
関係会社長期貸付金		8
その他	3	3
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	5,798	5,269
固定資産合計	7,889	6,762
資産合計	32,432	30,687
負債の部		
流動負債		
支払手形	3,421	3,311
買掛金	1 1,005	1 943
1年内返済予定の長期借入金	3,551	3,785
未払金	1 968	1 535
未払費用	2	0
未払法人税等	241	
預り金	592	15
賞与引当金	477	17
その他	342	226
流動負債合計	10,604	8,836
固定負債		
長期借入金	6,097	6,200
退職給付引当金	1,716	1,621
役員退職慰労引当金	584	622
関係会社事業損失引当金	477	444
資産除去債務	64	2
その他	5	
固定負債合計	8,946	8,891
負債合計	19,550	17,728

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,571	1,571
資本剰余金		
資本準備金	1,493	1,493
その他資本剰余金	1,890	1,868
資本剰余金合計	3,384	3,362
利益剰余金		
利益準備金	129	129
その他利益剰余金		
買換資産圧縮積立金	2	2
別途積立金	700	700
繰越利益剰余金	7,470	7,720
利益剰余金合計	8,301	8,551
自己株式	421	570
株主資本合計	12,836	12,915
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	45	43
評価・換算差額等合計	45	43
純資産合計	12,881	12,958
負債純資産合計	32,432	30,687

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	1 27,393	1 20,764
売上原価	1 10,954	1 10,963
売上総利益	16,438	9,801
営業収入		1 75
営業総利益	16,438	9,876
販売費及び一般管理費	1, 2 14,940	1, 2 8,809
営業利益	1,498	1,067
営業外収益		
受取利息	1 14	1 6
受取配当金	4	6
不動産賃貸料	1 9	1 9
受取手数料	34	17
その他	1 37	1 23
営業外収益合計	101	62
営業外費用		
支払利息	51	41
その他	19	23
営業外費用合計	70	64
経常利益	1,528	1,065
特別利益		
固定資産売却益	14	0
投資有価証券売却益		4
受取補償金	8	11
資産除去債務取崩益		42
関係会社事業損失引当金戻入額		40
特別利益合計	22	98
特別損失		
店舗閉鎖損失	3	10
減損損失	124	58
抱合せ株式消滅差損	15	
関係会社事業損失引当金繰入額	74	7
関係会社出資金評価損		200
特別損失合計	218	276
税引前当期純利益	1,332	887
法人税、住民税及び事業税	418	164
法人税等調整額	51	148
法人税等合計	366	313
当期純利益	965	574

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					買換資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,571	1,493	1,890	3,384	129	2	700	6,772	7,604
当期変動額									
買換資産圧縮積立金の 取崩						0		0	
剰余金の配当								267	267
当期純利益								965	965
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計						0		697	697
当期末残高	1,571	1,493	1,890	3,384	129	2	700	7,470	8,301

	株主資本		評価・換算 差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	
当期首残高	146	12,413	48	12,462
当期変動額				
買換資産圧縮積立金の 取崩				
剰余金の配当		267		267
当期純利益		965		965
自己株式の取得	274	274		274
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			2	2
当期変動額合計	274	422	2	419
当期末残高	421	12,836	45	12,881

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					買換資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,571	1,493	1,890	3,384	129	2	700	7,470	8,301
当期変動額									
買換資産圧縮積立金の 取崩						0		0	
剰余金の配当								324	324
当期純利益								574	574
自己株式の取得									
会社分割による減少			22	22					
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)									
当期変動額合計			22	22		0		250	249
当期末残高	1,571	1,493	1,868	3,362	129	2	700	7,720	8,551

	株主資本		評価・換算 差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	
当期首残高	421	12,836	45	12,881
当期変動額				
買換資産圧縮積立金の 取崩				
剰余金の配当		324		324
当期純利益		574		574
自己株式の取得	148	148		148
会社分割による減少		22		22
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			2	2
当期変動額合計	148	79	2	76
当期末残高	570	12,915	43	12,958

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

.....移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

.....決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

.....移動平均法による原価法

2. デリバティブの評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・商品.....個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 原材料.....移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(3) 仕掛品.....個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(4) 貯蔵品.....最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

...定率法

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物のうち、建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10～47年
構築物	15～40年
機械装置	7年
工具・器具及び備品	8年

(2) 無形固定資産

...定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用)については社内における利用可能期間(5年)で償却しております。

(3) 長期前払費用...定額法

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討して回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員(年俸制移行者は除く)に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当事業年度において負担すべき額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の事業年度から費用処理しております。

(4) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、当該会社の事業の状況等を勘案して必要額を計上しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約が付されている外貨建債権債務については、振当処理を行っております。また、特例処理の要件を満たしている金利スワップは、特例処理を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建債権債務
金利スワップ	借入金利息

(3) ヘッジ方針

為替予約は、外貨建債権債務に係る為替リスクを回避する目的で、実需の必要範囲内で行っております。金利スワップは、長期借入金にかかる金利変動リスクを、回避する目的で行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ対象との期日、金額などの同一性を確認することで、有効性を確認しております。特例処理によっている金利スワップについては、有効性の判定は省略しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

財務諸表において、未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結財務諸表と異なっております。個別財務諸表上、退職給付債務に未認識数理計算上の差異を加減した額を退職給付引当金に計上しております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式により処理しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」222百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」776百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「流動資産」の「その他」に含めていた「関係会社未収入金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「その他」199百万円は、「関係会社未収入金」7百万円、「その他」192百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	1,306百万円	1,313百万円
短期金銭債務	37	44

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	680百万円	6,771百万円
営業収入		75
仕入高	908	286
販売費及び一般管理費	10	122
営業取引以外の取引による取引高	31	22

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度91.0%、当事業年度88.8%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度9.0%、当事業年度11.2%であります。

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給与手当	6,118百万円	3,732百万円
賞与引当金繰入額	471	10
退職給付費用	207	97
役員退職慰労引当金繰入額	24	43
支払家賃	3,214	1,689
減価償却費	431	383
貸倒引当金繰入額	0	0

(有価証券関係)

前事業年度(2018年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	26	78	52

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式

区分	貸借対照表計上額(百万円)
子会社株式	35

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含まれておりません。

当事業年度(2019年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	26	72	46

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式

区分	貸借対照表計上額(百万円)
子会社株式	45

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含まれておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	19百万円	14百万円
賞与引当金	146	5
未払事業税	26	3
役員退職慰労引当金	178	190
退職給付引当金	525	496
関係会社株式評価損	4	4
関係会社出資金評価損	98	159
投資有価証券評価損	5	4
関係会社事業損失引当金	146	136
減損損失	43	36
未払費用及び未払金	29	3
資産除去債務	19	0
その他	4	4
繰延税金資産小計	1,246	1,059
評価性引当額	455	417
繰延税金資産合計	791	642
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	13	13
買換資産圧縮積立金	1	1
繰延税金負債合計	14	14
繰延税金資産の純額	776	627

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	0.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0	0.0
住民税均等割	11.7	9.1
評価性引当額	16.6	4.3
その他	1.0	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.5	35.3

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結財務諸表の「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)
有形固定資産						
建物	1,271	190		256 (43)	1,205	1,935
工具、器具及び備品	585	61	489	126 (14)	31	407
土地	31				31	
その他	0			0	0	7
建設仮勘定	4	2	4		2	
有形固定資産計	1,892	255	493	382 (57)	1,270	2,350
無形固定資産						
ソフトウェア	148	78		51	174	
ソフトウェア仮勘定	2	61	63		0	
電話加入権	46				46	
その他	0			0	0	
無形固定資産計	197	140	63	52	222	

(注) 1. 「当期償却額」欄の()内は、内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 「建物」及び「工具、器具及び備品」の「当期増加額」の主なものは、店舗の出店及び改装による取得であり、「工具、器具及び備品」の「当期減少額」の主なものは、A s - m e エステール株式会社への店舗什器・備品などの譲渡489百万円であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	3	4		3	4
関係会社事業損失引当金	477	7		40	444
賞与引当金	477	17	477		17
役員退職慰労引当金	584	43	6		622

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

2. 関係会社事業損失引当金の当期減少額(その他)は、見積による必要額の減少によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで										
定時株主総会	6月中										
基準日	3月31日										
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日										
1単元の株式数	100株										
単元未満株式の買取り											
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部										
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社										
取次所											
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額										
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載して行う。										
株主に対する特典	<p>1. 2019年3月31日現在の株主に対し、持株数に応じ次の株主優待を行う。</p> <p>(1) 優待券(2千円お買物券)の贈呈</p> <table> <tr> <td>500株以上</td> <td>1枚</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上</td> <td>2枚</td> </tr> <tr> <td>5,000株以上</td> <td>5枚</td> </tr> <tr> <td>10,000株以上</td> <td>10枚</td> </tr> </table> <p>(2) 商品の贈呈</p> <table> <tr> <td>1,000株以上</td> <td>10,000円相当の商品</td> </tr> </table> <p>2. 2019年9月30日現在の株主に対し、次の株主優待を行う。</p> <p>100株以上保有の株主に対し500円分のクオカードを贈呈</p>	500株以上	1枚	1,000株以上	2枚	5,000株以上	5枚	10,000株以上	10枚	1,000株以上	10,000円相当の商品
500株以上	1枚										
1,000株以上	2枚										
5,000株以上	5枚										
10,000株以上	10枚										
1,000株以上	10,000円相当の商品										

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号及び同法第166条第1項に掲げる権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第60期)(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)2018年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第61期第1四半期)(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)2018年8月8日関東財務局長に提出

(第61期第2四半期)(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)2018年11月13日関東財務局長に提出

(第61期第3四半期)(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)2019年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2018年6月29日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における決議事項の決議状況)の規定に基づく臨時報告書であります。

2019年6月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における決議事項の決議状況)の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月10日

エステールホールディングス株式会社
取締役会 御中

監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 登 三 樹 夫 印

業務執行社員 公認会計士 熊 谷 輝 美 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているエステールホールディングス株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、エステールホールディングス株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、エステールホールディングス株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、エステールホールディングス株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月10日

エステールホールディングス株式会社
取締役会 御中

監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 登 三 樹 夫 印

業務執行社員 公認会計士 熊 谷 輝 美 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているエステールホールディングス株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第61期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、エステールホールディングス株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。